

科目名称	子どもの作業療法応用
授業コード	AE321
英語名称	Application of Occupational Therapy Theory Pediatrics
学期	2024年度前期
単位	1.0
担当教員	大西 正二
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	本科目では、発達障害領域の作業療法で対象となる代表的な疾患・障害について、子どもの作業療法基礎で学んだ知識を基に、治療計画を立案し、治療目標、治療実施のプロセスを学習する。
科目に関連する実務経験と授業への活用	発達障害領域の作業療法士としての、乳児期から高齢期までの実務経験を活かして講義する。
到達目標	カルキュラム・ポリシーにおける「基礎作業療法学や評価学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ」が実現するよう、発達障害領域の作業療法の具体的な実践方法について理解する。 子どもの作業療法応用を通し、子どもの作業療法を実践していくために必要な治療計画の立案、治療目標、治療実施のプロセスについて理解することを目標とする。
計画・内容	<p>第1回 制度・福祉サービス・補装具について / 子どもの作業療法とICF</p> <p>第2回 姿勢の評価（背臥位）</p> <p>第3回 姿勢の評価（座位）</p> <p>第4回 ファシリテーションテクニックによる神経生理学的アプローチ</p> <p>第5回 感覚統合療法によるアプローチ（感覚調整障害）</p> <p>第6回 感覚統合療法によるアプローチ（行為機能不全）</p> <p>第7回 摂食機能の評価</p> <p>第8回 摂食機能へのアプローチ</p> <p>第9回 知的障害の作業療法</p> <p>第10回 脳性麻痺の作業療法（幼児）</p> <p>第11回 脳性麻痺の作業療法（学齢期 / 青年期）</p> <p>第12回 脳性麻痺の作業療法（成人期 / 高齢期）</p> <p>第13回 重症心身障害の作業療法</p> <p>第14回 学習障害の作業療法（読み障害）</p> <p>第15回 学習障害の作業療法（書き障害）</p>

授業の進め方	パワーポイントを使用した授業形式で、映像資料などを適宜使用する。
能動的な学びの実施	理解を深めるために、必要に応じて実技やグループワークを行う。
授業時間外の学修	授業前にあらかじめ教科書に該当箇所を目を通しておく。 授業後は、教科書、テキストを関連づけて自分の講義ノートを整理する。 (予習復習を合わせて合計15時間)
教科書・参考書	【教科書】 長崎重信, 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト発達障害作業療法学第3版, メジカルビュー社, 2021. 【参考書】 新田収・笹田哲・内昌之, 知りたかった! PT・OTのための発達障害ガイド, 金原出版, 2012. 渡部伸, 障害のある子が将来にわたって受けられるサービスのすべて, 自由国民社, 2019. 金子芳洋, 食べる機能の障害, 医歯薬出版, 1987. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 小児の摂食嚥下障害, 医歯薬出版, 2020.
成績評価方法と基準	各授業後の小テスト(40%) + 定期試験(60%)
課題等に対するフィードバック	リアクションペーパーにおける質問については、次回の授業開始時にフィードバックを行う。 (各授業後に実施する小テストに質問欄を設ける予定)
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	発達の領域では対象者の発達レベルや障害の原因を正確に評価する必要があります。 子どもの作業療法を通して、代表的な疾患の知識を習得しておくことが重要です。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1. 各授業をオンラインもしくはオンデマンドで配信をする。 2. 各授業後に課題を提示する。 成績評価方法と基準 各授業後に提示した課題: 100%